

# 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

## 学力向上アクションプラン

重点取組分野		具体的取組
授業改善		①少人数指導の徹底やTTなどの指導体制で、担任・専科・国際・通級・専任・養護など多くの目で個別に対応し、より丁寧な指導をしていく。 ②読書タイムが日常の読書につながり、語彙の獲得や読解力が向上していくよう、読み聞かせの機会を多く設ける。
担当	学習指導部	③重点研究会の取組では、算数科を中心に「コミュニケーション能力」を育成する。

### 学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態  
横浜市学力・学習状況調査の結果に基づく、児童生徒の学力の状況によると、平均正答率では、全体的に横浜市の平均を下回っているものの、前年度に比べて平均値の向上が見られた。一方で、「勉強は好きか」という質問に対して「好き」「どちらかと言えば好き」と答える児童は約8割おり、これは市の平均よりも高い。学習意識は年々向上しており、少しずつ調査結果に反映されつつある。  
学力層は、C層D層(※)が過半数である。昨年度と比較すると全ての教科でD層が減少した。

(2)これまでの学校の取組状況  
①朝の時間を有効に活用し、スキルタイムで計画的な反復学習や授業を補う活動を行ったり、読書タイムで子どもの読書活動の推進を図ったりした。  
②教科担任制や少人数指導を取り入れ、多くの目で児童の学びを支え、学力向上を目指した連携をした。

【調査結果の全体チャート】

### 今年度の目標

①子どもたち一人ひとりが、自分の考えをもつことができる授業づくりを目指す。  
②自分自身の成長を実感できる授業づくりを通して、考えを言葉で表現することを目指す。

### 目標を実現するための具体的行動プラン

**上半期**

①子どもたち一人ひとりが、自分の考えをもつことができる授業づくりを目指す。

○学力向上については、すべての教科において学習や生活の中で使用できる語彙が増えるように、言葉の習得を意識した指導法の工夫を行っていく。具体的な取り組みとしては、朝の時間を有効に活用し、15分間のスキルタイムに学習習慣を身につけ、読書活動の充実を図る。高学年を中心に算数少数人数や図工、家庭科専科を取り入れ学年全体で計画的に学力向上に向けての指導を展開していく。  
○生活意識向上については、今後も規則正しい生活リズムを作り、学力向上につながる良い習慣づけができるよう、懇談会等を通じて、家庭や地域と連携していく。

**下半期**

②自分自身の成長を実感できる授業づくりを通して、考えを言葉で表現することを目指す。

○各学年の発達段階に応じた取組をしていく。  
・低学年は、体験的な活動や本の読み聞かせ、スピーチをしたり、学習した語彙を教室掲示したりする。  
・中学年は、国語辞典や図書館、情報機器を使い、相手意識のある学習活動をしていく。  
・高学年は、事実を比較したり、分類したりする学習活動を通して、自分の考えを他者に伝え、仲間の思いを理解しようとする経験を積む。また、語彙を豊かにし、構造的に情報を整理する。様々な立場を経験したり他者と関わり合いをもつ。  
・個別支援学級は日常の日記指導や日直のスピーチを行う。グループ学習やペア学習の機会を多くする。

## 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
安心して学べる学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育を実践する。</li> <li>○あいさつを大切にし、温かい人間関係を築き、自他を大切にする心を育てる。</li> </ul>
担当	道徳部・特別活動部

豊かな心に関わる本校の状況
<p>(1)豊かな心に関わる児童の実態 横浜市学力・学習状況調査の、生活・学習意識調査において、「学校は安心できる場所だと思うか」という質問に約6割の児童が「そう思う」と回答した。これは市の平均とほぼ同じとなっている。一方で、「自分にはよいところがあると思うか」という質問に、「そう思う」と答えた児童は、約41%であった。市の平均(約47%)と比較すると、自己肯定感が低い傾向にあると考えられる。</p> <p>学校評価アンケートによると、たてわり活動に楽しく参加していると答えた児童は、6割いた。</p> <p>また、ふれあいステージや朝会で頑張っている人のすてきなところを見つけられたと答えた児童は、「そう思う」「まあそう思う」を合わせると8割強いた。</p> <p>たてわり活動やふれあいステージが、互いを認め合おうとする態度の育成につながっていることがうかがえる。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況 ①感染症対策で異学年交流に制限が設けられる時期があるが、放送等を活用し、学級単位であっても全校でつながれるように活動を工夫した。 ②放送の良さを生かし、事前に収録した取材映像を分かりやすく編集し、全校で「ふれあいステージ」や「多文化交流集会」でお互いのよさを認め合うことができた。</p>

今年度の目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育を実践する。</li> <li>○あいさつを大切にし、温かい人間関係を築き、自他を大切にする心を育てる。</li> </ul>

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。</li> <li>○子どもたちの問題意識を道徳科の導入や振り返りに生かすこと意識した指導計画を立て、実施していく。</li> <li>○「たてわり活動」「ふれあい清掃」「委員会活動」「クラブ活動」などの異年齢集団を自主的・意欲的に行うことができるようにする。</li> <li>○児童アンケートの実施や、職員間の情報共有を密にし、児童の実態把握に努める。</li> <li>○個に応じた適切な指導や必要な支援が行われるよう、特別支援教室、国際教室を活用して学びの場の充実を図ったり、通級指導教室と連携したりする。</li> </ul>
下半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳教育推進教諭を中心に、道徳科の授業づくりについての資料や情報の共有、研修を行い、指導に生かす。</li> <li>○多文化交流集会を通じて、外国につながる子ども達も日本の子ども達も、互いのつながる国の文化にふれ、文化の多様性への理解を深められるようにする。</li> </ul>

## 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①自分自身の健康のために運動を楽しむ習慣を身につけられるよう取り組みを計画する。 ②外部機関と連携し、児童の発達段階に応じて保健教育や防災教育を実施させ、健康や安全についての意識の向上を図る。
担当	体育・保健安全部

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
<p>(1) 体育・健康に関する実態把握</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は、新型コロナウイルス感染防止対策を講じながら新体力テストは実施した。昨年度の結果から、週3日以上運動している児童は、全体の5割程度である。全国、横浜市平均では約4割程度なのでそれを上回ることがわかった。</li> <li>・朝食を毎日摂取する子の割合が昨年の85%から82%に低下した。また、睡眠時間については、8時間以上の睡眠をとっている児童が75%と、市平均の69%を上回っている。</li> </ul> <p>(2) 体力の概要と要因の分析</p> <p>昨年度の新体力テストの結果から、男女共にほとんどの項目で市の平均を上回っている。生活意識調査と体力テストの得点を合わせてみると、学校での休み時や放課後の外遊びに対する関心が高く、スポーツクラブに所属し、男女ともに市の平均を上回る児童が多い。日頃から運動に親しむことが児童の体力づくりにとって重要である。</p>	<p>①仲間と共に楽しく体を動かす活動を通して、体力を付けたり、体を動かすことへの興味関心を高めていく。</p> <p>②外部機関と連携した行事や学習を通して、健康や安全への興味関心を高める。</p>
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○なぜ運動が大切なのかを考え、健康生活委員会を中心に「みんなで楽しくでき、続けられる運動」を学校保健委員会で作り、実施する。</li> <li>○課題解決に向け、具体的な実践につなげられるよう、横浜市体力・運動能力調査や健康診断の結果を一人ひとりの児童が振り返る時間を設定する。</li> <li>○日常的な健やかな体に関わる取り組みを保健だより等で家庭や地域に発信する。</li> <li>○関係機関と連携し、交通安全や放課後の安全な過ごし方について話し合い、危険を予測する力を育成する。</li> </ul>
下半期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保健学習(3～6年生)では、学級担任と養護教諭が連携しながら、生活習慣を見直すことで健康の保持増進につなげようとする態度を育成していく。</li> <li>○活動を通して、他者とコミュニケーションを取りながら、運動を楽しめるよう、運動委員会を中心にスポーツ週間を運営する。</li> <li>○上半期の運動習慣を振り返る時間を設け、各学級で下半期の目標を立てて、具体的な取り組みについて話し合い、実施する。</li> </ul>